

99)

シェーングレン症候群の乾燥症状に対する 麦門冬湯の効果

東京医科大学病院 内科第Ⅲ講座

○殿塚典彦, 阿部守雄, 太原恒一郎, 稲富敏伸, 竹越 享, 山田荘太郎, 楽得康之,
陳 光偉, 高梨博文, 村上 浩, 北田浩一, 高木賢治, 坪井紀興, 林 徹, 伊藤久雄

目的：麦門冬湯は咽喉の乾燥症状の治療として期待される数少ない薬剤の1つである。Sjogren's Syndrome患者の sicca symptom に対する麦門冬湯の効果を自覚症状および他覚所見の面から検討した。

対象および方法：乾燥症候単独群11名(I群), 慢性関節リウマチに合併する乾燥症候群13名(Ⅱ群), クリオグロブリン血症に伴う乾燥症候群2名とサルコイドーシスに伴う者1名(Ⅲ群)の計27名の Sjogren's syndromeの患者を対象とした。麦門冬湯9.0g/dayを食間に投与し, 投与後1ヶ月, 3ヶ月の時点で自他覚的な効果判定を行い, 同時にShirmer's test, Gum testを施行し, 麦門冬湯の外分泌機能に与える影響を検討した。

結果：27名中12名(44.4%)に自覚症状の改善がみられた(I群6/11 54.5%, Ⅱ群4/13 30.8%, Ⅲ群2/3 66.7%)。乾燥症状の中, 眼球乾燥症状のみの改善を自覚した者が2名で残る10名は口腔内乾燥症状の改善も伴っていた。外分泌腺機能検査では前後2回以上検策し得た23例中Gum testで唾液量が増加した例は4例で, 正常域まで改善した例は1例であった。自覚的な口腔乾燥症状の改善は27例中10例(37%)にみられた。Shirmer's testでは23例中7例に有意な改善がみられ, その中5例は正常化しており, いずれも自覚症状の改善を伴っていた。治療効果と患者の背景因子を検討した結果では, 罹病期間が短い例に有効例が多い傾向は認めたが, 罹病期間がそれぞれ10年, 8年の症例もShirmer's testが正常化しており, その他good responderとnon-responderとの間に明確な差を見い出せなかった。口腔乾燥症とGum testの改善度とは相関傾向がみられず, 麦門冬湯の作用機序は単に外分泌量の増加のみではなく, 別の因子の関与が考えられた。眼症状に対しては点眼薬により, 湿潤性を保つことが可能であるが, 麦門冬湯の投与により30%前後にShirmer's testの改善を伴う有効例がみられている。乾燥症状に対する有効な治療法が極めて少ない現状では, 自覚的な改善が44%にみられ, 外分泌機能の改善も期待される合方剤の麦門冬湯は試みるべき治療法と考えられた。今後は症例を重ね, good responderとnon-responderの明確な差(即ち漢方学的な診断を照合しつつ)を明らかにする必要がある。